令和7年度　江戸川区立松江第一中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○思いやりをもち、協力し合い豊かな心をつちかおう ○進んで学習に励み、がんばりぬく力を身につけよう ○正しく、厳しく、美しく、生涯の基を築きます	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	①生徒が夢や目標に向かって邁進する学校 ②保護者や地域から信頼される学校 ③教職員が生徒のために力を発揮できる学校 ①思いやりと協調整を大切にし、豊かな人間関係を築ける生徒 ②自ら学び、考え、判断し、主体的に行動できる生徒　③心身共にたくましく、困難を乗り越え未来を切り拓く生徒 ①生徒のよさを見出し、それを伸ばす教職員　②豊かな人間性と思いやりのある教職員　③熱意と使命感をもち、信頼される言動がとれる教職員　④組織人として積極的に協働し、互いに高め合う教職員
前年度までの本校の現状	成果：・生徒アンケートより「授業がよくわかる」が93％を達成した。授業規律の徹底できた。 ・80％を超える生徒が「学校に行くことを楽しい」と感じている。 ・不登校について校内やクラスでもさらに理解が進んできた。 ・松江一に関わる様々な立場の方々と、情報交換をすることで地域との連携につながった。	課題	・読書に親しんでいるへの回答が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答が60％程度であった。 ・体力テストの結果は区の平均を下回っている。早急な対策が必要である。 ・ヤングケアラーの人数が予想以上に多い。支援が必要な世帯を把握、SSWと連携し支援に繋げる。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」学校による自己評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」学校による自己評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	**・わかる授業を推進 すべての生徒に「わかる喜び」「考える楽しさ」を実感させる。生徒の関心・意欲を高め、主体的に学習に取り組ませる。**	・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」を計画的に進める。 ・個別最適な学びのため一人一台端末の利用を促す。	・授業アンケート回答「授業がよくわかる」「授業がわかる」の合計が90% ・各学年で授業がある日の9割で授業配信	70%	90%	B	・授業アンケートの結果、多くの授業で「授業がよくわかる」が90 %を達成した。授業規律の徹底もできた。 ・各学年1クラスで定期的に授業配信ができた。	B	・母体となっている小学校では、都の正答率と近い。更なる学力向上を目指してほしい ・校内は落ち着いており、良い学校になっていると思います。	A	・生徒アンケートの結果、多くの授業で「授業がよくわかる」が93%を達成した。授業規律の徹底もできた。また平日の家庭学習を毎日1時間以上行うことが出来た生徒の割合は60%と昨年に比べ微増であった。	A	・保護者アンケートへの記載にもあるように、教職員の丁寧な対応にたいして大変ありがたいと感じている。新しくなったiPadをさらに活用してもらうことで、これからの時代に必要なスキルを身につけてほしい。	・デジタル教科書の利用は教科によって差が大きい。1人1台端末の更なる活用のため授業や家庭学習などでの利用を促す。
	・生徒へ家庭学習を習慣づけるため、学校による組織的な取組を実施。	家庭と学習面での連携を図り、デジタル教材を使用することで、家庭学習の習慣づけを行う。	・「江戸川っ子studyweek!」で電子ﾄﾞﾘﾙ等に取り組む生徒数を半数以上にする。	65%	80%	B	・「江戸川っ子studyweek!」利用強化期間を定期考査期間中に設定した。約60%の生徒が取り組んでいた。	B	・子供にとっても、家庭学習に取り組むよい機会となっている。強化週間の設定もtetoruで周知されているのも良かった。	B	・「江戸川っ子studyweek!」利用強化期間を定期考査期間や長期休業中に設定した。約6割の生徒が取り組んだ。	B	・多くの生徒は学校に行くことを楽しいと感じているようだ。本校の授業規律が高いレベルで維持されている証明だと思う。学校では落ち着いた環境が何より必要だと考える。	・生徒の学力向上に向けて、とくにEDOスク(放課後補習教室)を有効に活用していきたい。
	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・図書館整備を司書と計画的に進める。 ・図書館の使い方授業を実施する。 ・PTAの協力を得ることで、学校図書館の開設時間を増やす。	・読書科14回の1単位時間を活用し、学年で成果物を1つ以上作成する。 ・図書紹介年間1時間以上確保	40%	55%	D	・授業における学校図書館の利用回数については、改善の必要がある。 ・ブックトークや図書委員を中心とした書籍の紹介を朝学活で行った。	C	・月に2～3回水曜日に、PTAに より図書館開放を実施している。利用回数が少なく生徒たちの読書向上につながっているのかは検証が必要である。また読書の啓発活動も継続してほしい。	C	・クラスにおけるブックトークや図書委員会の活動を中心とした書籍の紹介を行った。 ・校外学習での事後学習で学校図書館を活用し探求的な学習を実施した。ポスターを作成し、見る人がわかりやすく工夫した生徒が多かった。	C	・読書に対して否定的な回答が60%以上であると聞いている。落ち着いた学校であるだけに少し寂しい結果である。今後改善していく課題である。また毎週水曜日の開放を、もっと生徒への周知してほしい	・書籍のバーコード化により、本の貸し借りの利便性は確実に向上した。図書館の更なる利用促進を図りたい。読書科の「探求的な学習」について、進路学習部を中心として検討する。
体力向上	**・基礎体力の向上および運動する意欲の増進**	・体力向上を促すために、体育の授業前に補助運動を必ず実施する。 ・全国や東京都の体力調査結果を分析し、生徒にとって伸ばすべき能力について確認する。	・体力調査 都の平均以上	30%	45%	D	体力調査において男女とも都の平均を下回っている。生徒間で運動の得意・不得意が分かれてしまっている。保健体育の授業開始時に補助運動を強化する。	D	・地域・保護者の立場からみても体力低下について危機感を感じる。昨年に引き続き運動部では良い成績を残しているので、そのことが全体の体力向上の結果につながるよう期待したい。	D	・生徒アンケートから、体力向上に意欲的に取り組んでいる生徒の割合は60%以上である。 ・昨年に引き続き体力調査は男女とも都の平均を下回っており、結果が表れてこない。効果的な方法を模索する必要がある。	C	・先生方は授業を丁寧に取り組んでいると思うが、体力向上になかなか繋がっていないと感じる。地域・保護者の立場から見ても体力低下は大きな問題だ。今後学校がどのように考えているのかを聞いてみたい。	・全校の体力向上のために何が必要であるのかを改めて考え指導法を研究する必要がある
共生社会の実現に向けた教育の推進	**・多様性やユニバーサルデザインなど共生社会に必要な知識理解の習得を推進。**	・生徒に向けて障碍や多様性を理解する教育など人権に配慮した教育を実施する。	・障がい理解教育を各学年で実施 ・1学「ｱｲﾏｽｸ体験」2学「手話体験」3学「点字体験」 ・多様性を理解する講演会を11月に実施する。	70%	80%	B	・障がいを体験する授業として、5月にアイマスク体験を実施した。2学期以降も予定されている体験や講演会を確実に実施する。	B	・日本においても障がい者やLGBTQへの理解が進んできていると感じます。特に弱視学級がある本校は、目の不自由な方々について学ぶ機会が揃っていると感じます。	A	・「多様性を理解する講演会」として、11月に障碍児を指導している方の講演会を実施した。次年度も生徒の共生社会に関する意識を高める講演会や体験を実施する。	B	・子供の教室でも課題を抱えている生徒がいる聞いている。その中でも子供たちで授業規律を保っているという。課題のある生徒を皆で支えていくことが共生社会に必要なことであると考える。	・例年踏襲している「多様性講演会」と「障碍理解教育」を実践するとともに、世の中の変容を考慮してどのような研修が必要であるか、議論していく。
	・副籍交流の充実。 共生社会の理解を深める。	区内にある都立鹿本学園との副籍交流を通して、生徒の障碍者理解を深める。	特別支援コーディネーターが1学期に1回、副籍生徒の情報共有を行う。	50%	60%	C	副籍交流の生徒の生徒共有を鹿本学園のコーディネーターと連絡を取り合った。お互いの学校だよりを交換するなど定期的な情報交換及び情報共有を実施している。	C	・副籍交流を通して、鹿本学園の様子を知ることができることはとても良いことだと思います。	C	・鹿本学園の生徒との直接交流は残念ながらできなかったが、お互いの学校の情報共有は実施することができた。	C	・副籍交流については、校内の掲示板で内容を知ることができるが、もう少し広報活動を広げて欲しい	・次年度も引き続き必要な交流を続けていく。直接交流も実現させたい。
不登校・いじめ対応の充実	**・不登校対策の実施及び更なる充実 エンカレッジルームを組織的に運用する**	・研究対象校として積み上げてきたノウハウを生かす。 ・不登校を発生させない「発達支持的生徒理解」を推進する。	・エンカレッジルーム運営に全ての教職員が関与する。 ・不登校理解を深める教員への研修を年に1回以上実	70%	80%	B	・4月当初に職員研修を実施しそれぞれの職員が不登校を生まないために何が必要なのかを考える機会となった。	B	・松江一中の不登校生徒への対応は素晴らしいと感じる。今後は不登校を発生させないために何がひつようなのかをぜひ考えてもらいたい。	B	・発達支持的生徒理解の推進により、ER利用生徒開始段階で適切な対応をとることで、早期の教室復帰を果たすことができた生徒もいた。今後もさらに充実させていきたい。	B	・不登校に対する支援事業は相変わらず素晴らしいものがあると感じている。ただ、通常登校をしている生徒の中にも課題を抱えながら一生懸命登校している生徒もいるはずである。そういった生徒も見逃さないようにしていただきたい。	・「発達支持的生徒理解」をさらに推進させ、生徒の不登校発現率を少しでも多く低下させる。
	・教育相談力の強化	・ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰの早期発見に必要な対応をする。実際に支援が必要と思われる事案にはSCやSSWなどの関係機関と連携し多方面から生徒への働きかけを行う。	・1年生と担任の面談を1回設定し、ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰについての聞き取りを行う。必要と判断すれは2回目の面談も実施する。	60%	70%	C	・1学期中に1年生と担任との面談を実施した。ヤングケアラーについて啓蒙活動も実施した。また気になる生徒には追加の聞き取りも行った。	C	・ヤングケアラーについて保護者の認知度がまだまだ少ないと思う。この問題は学校だけでなく地域全体で考えていく内容だと思う。	B	・1年生と担任はヤングケアラーについて2者面談を実施した。気になる生徒については児童相談所など、関係機関に早期につないでいった。今後もヤングケアラーについて啓蒙活動も実施した。	B	・ヤングケアラーの人数が予想以上に多いことに驚いている。学校だけに支援をさせるのではなく、支援が必要な世帯へ行政がしっかりと対応をするべきである。	・ヤングケアラーの数は少なくない、生徒の様子に常にアンテナを張り、早期発見、早期対応に心がける。SSWや児相などの関係機関と連携を深めていく。
	・hyper-QUを活用し生徒の学校生活を充実させる	・生徒やクラスの状況についての理解を深めるためhyper-QUを実施し、その結果を分析することで生徒にとってより良い学校生活への改善に活用する。	・hyper-QUを年に2回実施、結果を学年で共有しクラス運営の改善について話し合いをする。	60%	70%	C	・hyper-QUを1学期に実施した。結果を分析、共有することで、クラス運営上の問題点に早期に発見し対応するようにする。また見逃してしまいがちな生徒の困りに早期に対応することができた。	B	・先生方がクラスの分析や対策をしていただいていると聞き、とても安心しております。	B	・hyper-QUを2学期に2回目を実施、1回目との結果を変移を分析、共有することで、クラス運営上の問題点に早期に発見し対応するようにした。	B	・子供たちの人間関係について先生方が調査と研究をしていただいていることに安心をしております。	・Hyper-QUはクラスにおける生徒理解にとても有効である。生徒が満足できる学校生活を送るためににはどのような支援や改善が必要なのかについて協議する。
地域社会に開かれた学校の実現	**・学校ホームページの充実**	・本校の教育課程関連資料やいじめ基本方針をHPに掲示し、地域・社会に開かれた学校の実現を目指す。また生徒の日常の教育活動を可能な限りアップする。	・行事や学校での出来事を紹介するために週1回以上は学校HPの更新を行う。	70%	80%	B	・経営支援員の協力により、日々の教育活動の紹介をアップするなど、学校HPの更新は頻繁に実施できている。今後もさらに充実していく。	B	・給食のメニューは毎日更新されています。また行事のときも更新が多く、とてもわかりやすいホームページだと思います。	B	・週1回以上の学校HPの更新を実施できている。今後もさらに充実していく。	A	・給食のメニューや行事の様子が更新されています。わかりやすいホームページだと思う。学校行事については、もっと細かに写真付きでタイムリーに更新していってほしい。	・HPの更新はもちろんのこと、本校の教育活動をより社会に開かれた者とするために、HPやtetoruなどを積極的に活用する。
	・運動会や合唱コンクールなどの行事や授業公開の充実	・特に地域の自治会や町会の方々にも学校公開を参観していただく。	毎月1回配布している学校だより に学校公開の内容を含めて配布する。	60%	70%	C	・本校PTAの協力のもと。運動会における保護者公開はしっかりと行うことができた。また学校公開の連絡も出来ている。	B	・特に行事での子供の様子をみると充実していることがよくわかる。学校公開の期間で授業を見れることは貴重な経験だと感じる。	B	・合唱コンクールも保護者のみならず地域の方に参観していただくことができた。評価は概ね好評であった。	A	・松江一中は行事の公開に関してとてもよく努力していると感じる。またPTAの方々が協力的であると感じる。	・引き続き社会に開かれた学校を目指し、必要な手立てを講じていく。
	・地域行事の遂行について	・参加人数やその内容について検討しながら、地域への行事へ積極的に参加する。	・4月下旬と11月下旬に蓮植え。蓮堀りを計画する。 ・地域祭りボランティアへ生徒を1回は参加させる。	60%	80%	C	・4月29日に蓮植えの会を実施した。生徒会役員と運動部の部員が参加し、盛大に執り行えた。吹奏楽部の記念演奏もあり盛況であった。	C	・年々参加が増えており盛況に実施することができた。蓮の成長も順調である。11月の開催では区長の来訪を期待している。	B	・4月と11月の2回、本校にある蓮池で「蓮植え」「蓮堀り」を実施した。生徒のボランティア参加も多くなり吹奏楽部の記念演奏などがあり盛況であった。	B	・生徒ボランティアのみならず、PTAのOBや以前勤務されていた先生方も集まり盛大に開催することができた。今後も継続してほしい。	・本校の伝統行事を継承しつつ、その時代にあった運営方法について協議を重ねていきたい。
特色ある教育の展開	**・学校における働き方改革を意識した取り組みの実践**	生徒の出欠席の連絡を「Tetoru」を用いることで業務負担を軽減する。朝の伝達事項をC4thの連絡掲示板等を使用することで朝会の時間を短縮させる。	朝全体打合せを3分以内に終わらせる。	65%	80%	C	・朝全体打ち合わせは、特別な連絡がある場合を除いて、3分以内に終了している。またC4thの連絡掲示板や個人連絡の活用も進んでいる。	B	・朝の欠席連絡がtetoruとなって2年目だが、保護者の負担が減って良いことだと思う。	B	・朝全体打ち合わせは、特別な連絡がある場合を除いて、3分以内に終了することができた。早く終わらせることで各学年のフロアに素早く上がることができた。	B	・朝の欠席連絡がtetoruでできることは、保護者にとって負担が減ってよかったと思う。	・学校のICT化はだいぶ進んできたが、校務軽減の可能性は多くの場面にある。ICT支援員を活用することで、働き方改革を推進する。